

おしゃべり通信

No. 254 R3. 1. 15 発行 如春会 浦田医院



「子どもと新型コロナウイルス感染症」

子どもはかかりにくいというけれど・・・

気になるポイントまとめ



新型コロナウイルス感染症が国内で確認されてから1年が経ちました。SARS-CoV-2 というコロナウイルスによる感染症で COrona VIrus Diseases-2019 を略して COVID-19 といいます。

1. 子どもの COVID-19 は、成人に比べ少なく、軽症

日本での10代以下の感染者は全体の2.6%（2021年1月19日時点 厚生労働省 HP より）で、子どもの COVID-19 感染者は成人に比べて少ない傾向があります。また、重傷者割合は、10代以下では0%に近く、で子どもは感染しても重症度は低いとみられています（50代1.9%、60代8.0%、70代6.4%、80代以上2.4%）。

長期的には後遺症などまだまだわからないことは多くありますが、この『子どもの COVID-19 は多くはなく、重症度もとびぬけて高くない。感冒（いわゆる風邪）やインフルエンザなどの一般的な感染症と大きく変わらない』という前提を踏まえることが重要です。そのうえで、子どもの学校・幼稚園・保育園などの集団生活やマスク使用などの感染対策、COVID-19 の子どもへのさまざまな影響などについて考えていきましょう。

2. 子どもがかかるとどんな症状があるの？

小児の COVID-19 の症状は咳や発熱などの症状が中心との報告がありますが、症状のみで COVID-19 か普通の風邪か、インフルエンザかを診わけることはできません。さらに、子どもの COVID-19 は全く症状のない子どもが3割弱いるといわ

れています。子どもの COVID-19 の診断のきっかけはその多くが家庭内感染です。子どもが COVID-19 かどうか？を予測するのに最も必要な情報は今のところ、家庭内で感染者と接触したかどうか、なのです。



3. 重症化のサインは？

① 呼吸不全（呼吸の状態が悪い）

呼吸が苦しいサインとは、以下のようなものです。

- 呼吸が早い
- 陥没呼吸（胸と腹の間やのどと胸の間が息を吸うときにへこむ）
- 尾翼呼吸（鼻の穴をぴくぴくさせる）
- うなるような呼吸（吐くときにン…ン…という）

② 多臓器にわたる炎症

2020年5月ごろから、欧米を中心に子どもに川崎病に似た症状を起こす COVID-19 患者が多く報告されるようになりました。この症状は COVID-19 感染から2～4週間以上経ってから起きることがわかっています。日本での報告は少ないですが、COVID-19 から回復後も2か月は全身状態に注意が必要です。

4. 二歳未満のマスクは必要ないのか？

日本小児科学会も2歳未満のマスク着用の危険性について考え方を示しています。そもそも2歳未満の乳幼児がマスクを適切に使用することは難しく、他者と2メートル離れることを実行することも難しいため、保護者が適切に COVID-19 予防に努めるほかありません。15歳未満の子どもはマスクを適切に着用できないといわれていますが、手本であるべき周囲の大人は正しくマスクを着用できていますか？

例えば、人と近い距離でしゃべる時には着用するなど、子どもの状況や周囲の感染状況などシーンに合わせてマスク着用の必要性を考え、大人が実行してみせることが大切です。

5. 学校・幼稚園・保育園などの集団生活は？

（集団生活をやめることで感染リスクが下げられるのか？）

子どもが感染流行の中心となるインフルエンザウイルス感染症に対しては、学級閉鎖・学校閉鎖が行われ、この方法は

一定の効果があります。しかしながら、この対策には社会的問題が付いてきます。すなわち、子どもを家庭でみるために保護者も仕事を休まなければならなくなり、経済活動が低下するなどの影響が出ます。

COVID-19 に対する学校閉鎖の効果と学校閉鎖が子どもに与える負の側面についてバランスが取れているか考える必要があり、学校側は衛生管理マニュアルを遵守、各家庭は新たな生活様式を守りながら、であれば子どもの集団生活は可能と考えられています。



換気をするモン
#OpenWindow



手を洗うモン
#WashHands



くっつかないモン
#KeepDistance

な生活様式を守りながら、であれば子どもの集団生活は可能と考えられています。

6. 子ども同士距離を置いて生活することに、負の影響はないのか？

非常に懸念されている案件です。中国の武漢市で子どもが自宅隔離されていた時の精神的影響を評価したアンケート調査研究がありますが、抑うつ状態が 22.6%、不安症状が 18.9%にみられました。日本でも国立成育医療研究センターが「コロナ×こどもアンケート」を実施しており、今の状況で 73%が何らかのストレス反応を示していることがわかっています。具体的にどのような負の影響が出てくるかは今後の状況を注意してみていかなければなりません。大人はずっと「コロナだからしょうがない」と言い続け、戦っていると思います。

その状況は子どもも同じであることを今一度確認し、子どもにも COVID-19 についてわかりやすく説明することが大切です。

子どもの COVID-19 は今のところ少なく、概ね軽症です。しかしながら、どんな感染症でも重症化傾向のある体質を持つ人はいるものです。正しく恐れ、行動化することこそが感染症の最大の予防であり、根拠のない恐怖から逃れる方法であるということを大人が理解し、子どもにも上手に伝えていきましょう。